



上益城郡獣医師会 上益城支部長
じんだ動物病院 院長
じんだ せいし
陳田 誠士さん

飼い主よりも先にいなくなる。 そのことを分かっていて欲しい。

最期を見据えて

かわいという気持ちから飼い始めると思いますが、後々のことを一度考えて飼うようお願いしたいです。犬や動物は、寿命が人間より短いです。犬は10〜15年ですから犬も10歳を超えると老齢病やガンにもかかります。動物も平均寿命が伸びていますが、それに伴って、ガンにかかって亡くなることも増えていきます。そうした時、飼い主が動けない犬を介護する必要があります。動物を飼う時は、そのことを念頭に置いて飼ってもらいたいです。

歳をとると毛並みが悪くなったり、おいがきつくなったりいろんなことが起こります。中には認知症になる犬もいて、夜中ずっと吠えて、飼い主が寝不足になってしまうこともあります。治らない病気で最期に苦しんだり、痛がっている犬の姿を見なくてはいけません。そういった辛いこと、大きなストレスがかかることを知ってほしいですね。

飼い方の基本

防げる病気は飼い主が予防すること。心臓病のフィラリアなど死に至る病でも予防できますし、狂犬病の予防接種は法律で決まっていますので必ず受けてください。

不妊手術や去勢手術は最初の発情期ごろ施術すると乳腺腫瘍や子宮蓄膿症、睪丸の腫瘍(ガン)など、老後に多くなる病気の発症率を下げるができます。なにより、施術すると比較的飼いやすくなりますのでおススメします。

食べるものについては、人間の食事やおやつを与えない。玉ねぎやチョコレートがダメなことは認知されてきましたが、最近キシリトールガムを食べて中毒を起こした事例が多いです。キシリトール成分は犬にとっては猛毒で、大型犬でも死ぬことがあります。

命と向き合う

どこの動物病院でも一度はあることと思いますが、病院の玄関先に犬や猫が捨てられていたことがあるんです。自分の勝手な都合で命を捨てる飼い主は言語道断ですね。この病院にいる猫はすべてです。段ボール箱などに入れてあったり、横に少し食べ物が置いてあったり。動物たちも人間と同じ一つの命だ、ということに向き合ってほしいと思います。

取材を終えて

殺処分されている犬や猫の話を聞いたり調べたりしていると、人間はなんて身勝手な生き物なんだろうと感じました。飼っていた動物を捨てる理由は「全て人間の都合」。動物は「動く物」と書きますが「物」ではありません。彼らは人間と同じようにうれしい時もあれば悲しい時、苦しい時もあります。

犬にとって飼われるということは、自分の一生を飼い主に捧げるということと同じ。いわば「結婚」です。飼い主は結婚指輪の代わりに首輪を贈ってください。最初に首輪をつけてあげたその気持ちを、彼らが最期を迎える時まで忘れないでください。きっと「この人に飼われてよかった、ありがとう」と彼らは思っています。



辺田見若宮神社(御船町辺田見)

捕獲された犬や猫、また、飼い主の都合で飼えなくなったとして多くの動物たちが犠牲になっています。御船町にあるこの神社では、上益城郡動物愛護推進協議会が、毎年動物愛護週間にあわせて、動物の慰霊のために動物慰霊祭を行っています(一般参加可能)。今年も、9月26日(水)午後1時半に開催されます。